

# ひろしまの遺跡

第112号

## 平安時代の公務員(官人)の石帯出土

天地遺跡(福山市新市町)



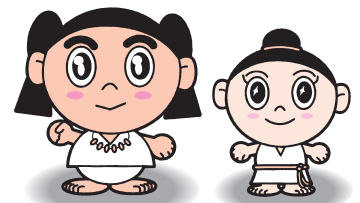
調査風景(段状遺構等)



せきたい まるとも  
石帯(丸鞆) (左:表面, 右:裏面)

天地遺跡の溝状遺構から平安時代の土器とともに古代の公務員(官人)が身に着けた腰帯を飾る石帯(丸鞆)が出土しました。

石帯は、これまで広島県内で9遺跡から出土していますが、福山市内の遺跡では初の発見です。



ひろちゃん

やよいちゃん

# 発掘調査速報

① 天地遺跡・天地第1号古墳 (福山市新市町常)

調査期間 平成26年7月7日～10月17日

天地遺跡は、新市町の北部の常金丸地区に位置し、調査区は北から南に下る斜面に立地しています。

調査では、これまでに石帯が出土した溝状遺構のほかに、竪穴住居跡、段状遺構、柱穴群を検出しています。遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器・亀山焼・鉄製品などが出土していますが、古代から中世の土器が多くを占めています。

竪穴住居跡は2軒見つかり、カマドを伴い古墳時代後期から古代にかけてのものです。古代から中世の段状遺構には、壁溝や柱穴を伴うもの、壁面にやや大きな石を伴うものもあります。また、複数の段状遺構が重なっていると考えられるものもありますが、土層観察では明確な前後関係が認められません。造られた時期にあまり差が無いか、長い一つの遺構の可能性も考えられます。この遺構では土鍋などが出土していますが、平坦面が少なくやや大きな溝を検出しており、住居ではなく、道などの他の用途に使われた可能性も考えられます。

天地第1号古墳は、天地遺跡から西に30mほど登った、北から南に延びる丘陵の先端部付近に立地しています。調査は墳丘の南側半分のみですが、試掘調査で墳丘中央部に埋葬施設(箱式石棺1基)が確認されています。

墳丘の南側は地山を削って直線的な裾部が造り出され、北側は丘陵に直交する溝により区画されていると考えられます。東側と西側は自然地形を利用し、裾部が僅かに掘削されています。墳丘の形態は方形に近く、南北10.5m、東西10.9mの規模です。古墳に伴う遺物はなく、築造時期は不明ですが、立地から眼下の谷部に存在した集落との関わりが伺えます。

なお、第1号古墳から南に2m離れた場所から、調査中に第2号古墳が発見されました。(新井真吾)



石帯が出土した溝状遺構



壁溝や柱穴を伴う段状遺構



壁面に石を伴う段状遺構



天地第1号古墳



## はらばたけ 原畑遺跡(第2次) (庄原市口和町大月) おおつき

調査期間 平成26年4月7日～5月23日

原畑遺跡は、平成20年度に中国横断自動車道尾道松江線建設に伴って発掘調査を実施した古墳時代中期を中心とする集落跡です。遺跡は口和I.C.付近に位置していますが、平成25年夏の大雨で付近の法面が崩壊し、遺跡の一部が崩落しつつあるため、第2次の発掘調査をすることになりました。

調査の結果、掘立柱建物跡2棟(SB1・2)と性格不明の遺構2基(SX1・2)が見つかりました。

今回の調査区は、第1次調査で住居跡が数軒見つかった場所の西側の奥まった地点にあたり、第1次の調査成果と合わせて、集落の広がりの確認でき、中国山地の古墳時代集落の構造を知る上で新しい知見を得ました。

(梅本健治)



## かめ い じょうかん れん 亀居城関連跡(大竹市小方) おがた

調査期間 平成26年7月14日～  
平成27年1月9日

亀居城関連遺跡は、近世初頭に福島正則によって築城された亀居城跡の南東に位置し、調査区は亀居城跡の山の斜面と近世西国街道に挟まれた南北に長い平地部です。

調査は、地下遺構の状況を確認するため10本のトレンチを設定して調査を始めました。その結果、赤く焼けた地面、石垣積みの土台や石列、井戸と思われる土坑等を確認しました。周辺は第2次長州戦争の激戦地であったことから、赤く焼けた地面はその痕跡の可能性が考えられます。

現在はトレンチ調査の成果をもとに、面的に調査範囲を広げ、遺構の時期や内容を明らかにしつつあります。(渡邊昭人)



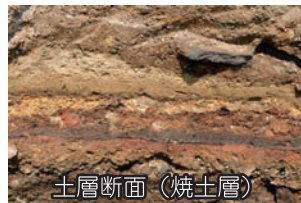
SX 2 調査風景



柱穴内の土師器・高杯出土状況



調査区全景(道路と崖面の間)



土層断面(焼土層)



調査区状況(石列等)

知られざるひろしまの遺跡探訪

# 広島発！ローカル(乗合)列車・ バスで行く遺跡探訪ツアー

日ごろ個人では見学することが難しい遠隔地の遺跡をローカル列車や乗合バスで訪ねる体験をとおして、広島を歴史を体験的に学ぶ企画を設けました。

第1回は、7月5日(土)「三次市布野の石舞台古墳(鏡ヶ宿古墳)と旧出雲街道てくてく旅」として、スタッフを含め24名が広島バスセンターに集合し、中国自動車道を経由し、三次バスセンターで乗り換えて布野町に向かいました。道の駅「ゆめランド布野」で昼食をとり、旧出雲街道を歩きながら、途中、知波夜比売神社、千人塚を見て、広島県重要文化財の松雲寺の「五輪塔」、三次市史跡「鏡ヶ宿古墳」、最後に中村憲吉文芸館を見学しました。

旧出雲街道を歩く



鏡ヶ宿古墳の見学



第2回は、「瀬戸内の古代塩づくりの遺跡と古代製塩体験」として、スタッフを含め15名が広島バスセンターに集合し、とびしまライナーに乗り、瀬戸内海と島々を見ながら呉市蒲刈町の県民の浜に行きました。この県民の浜を造成するときに製塩遺跡(沖浦遺跡)が見つかり、現在はそれを活かした「古代製塩遺跡展示館」、「藻塩づくり体験施設」が設けられています。昼食を終えた後、藻塩の会の指導により塩づくりを体験しました。炉に並べられた製塩土器に鹹水を入れ、沸騰したら少し足すという作業を続け、次第に土器の中に塩ができてきました。土器の熱が冷める間に展示館を見学しました。塩が入った土器をお土産に帰路につきました。(桑原隆博)

塩づくり体験



塩のできあがり!



## 今後の予定

回	実施日	遺跡探訪の内容
第3回	11月15日(土)	「近世西国街道・玖波宿探訪と発掘現場見学」(大竹市)
第4回	2月14日(土)	「本郷町の梅木平古墳・御年代古墳と亀山石の石棺を訪ねて」(三原市本郷町)

※第3・4回はJR広島駅等を集合・出発の予定です。詳しくは当調査室のHP等でお知らせします。

## 南観音考古学教室Ⅱ 一見る・聞く・やってみるの考古学一

遺跡の探訪や出土品を見ながらその技と心を学ぶことをとおして、広島市の歴史や文化への理解を深めていただくことを目的に、広島市南観音公民館と共催で実施しています。

第1回は7月27日(日)、南観音公民館において「きらきら教室ー勾玉づくりー」を開催しました。参加者は、家族での参加も多く、定員を大幅に超える46名でした。最初に、勾玉についての説明を聞いた後、砥石・棒ヤスリで粗く削り、次第に勾玉の形にして、最後に耐水性の紙やすりで磨いて仕上げ、キラキラ輝く、それぞれ思い思いの勾玉が完成しました。

第2回は8月21日(木)、当調査室において「マル秘お仕事拝見ー埋蔵文化財調査室公開ー」を開催し、参加者は16名でした。広島県の埋蔵文化財について聞いた後、土器の洗浄・復元・実測などの整理作業や収蔵庫、図書・資料の保管室を見学し、最後に、土器の洗浄、古銭の拓本を少し体験して、仕事の一部に触れていただきました。

第3回は8月24日(日)、当調査室の中庭において「うまうま教室ー古代のごはん炊きー」を開催し、参加者は15名でした。中庭に石でカマドを組み、土器(複製品)を使い、煙にむせながら薪を焚き、30~40分でふっくらとしたごはんが炊きあがりました。薪でご飯を炊くことの難しさと、思った以上の土器で炊いたごはんのおいしさに全員が満足されました。

第4回は9月28日(日)、「てくてく教室ー広島市内の遺跡探検ー」を開催し、参加者は17名でした。広島城跡の本丸・二の丸の城に石垣・建物跡などや広島大本営跡・中国軍管区司令部防空作戦室(地下通信室)などの近代遺跡を見学し、最後に天守閣で開催されている企画展を観ました。広島城の学芸員の案内により、日頃気付かないかくれた文化財も見ることが出来ました。(桑原隆博)



第1回 キラキラ教室ー勾玉づくりー (7月27日)



第2回 マル秘! お仕事拝見ー調査室公開ー (8月21日)



第3回 うまうま教室ー古代のごはん炊き (8月24日)



第4回 てくてく教室ー広島市内の遺跡探検ー (9月28日)

## ◎大学生8名が博物館実習にチャレンジ

広島修道大学の博物館学講座の一環として、博物館学を履修する学生を受け入れ、埋蔵文化財資料取扱いの知識及び技能を習得することを目的に実施しました。同大学の4年8名が8月6日(水)～8日(金)の3日間、実習に取り組みました。

実習では、土器の洗浄、拓本、資料の展示・梱包、写真撮影などに取り組みました。参加者からは、「たくさんの実習内容で、中身の濃い実習だった。」「学校の授業ではできない貴重な体験ができた。」などの感想があり、実習をとおして新たな発見、体験ができたようです。



貼れパネを使ってキャプション作り

## ◎インターンシップ受け入れ ～大学生3名が調査室の仕事体験～

学生が在学中に、自らの選考や将来のキャリアに関連した就業体験を行うインターンシップを今年度から受け入れました。8月18日(月)～22日(金)の5日間、安田女子大学の3年3名が、土器・瓦の洗浄、図書や土器などの資料の整理・保管など、当調査室の仕事を体験しました。感想として、「体験をとおして歴史や文化について改めて考えること、知ることができた。」「仕事に対する姿勢や仕事の本質を学ぶことができた。」とあり、貴重な体験になったようです。



洗浄した土器の整理作業

## ◎埋蔵文化財取扱い技術研修会

県内の市町教育委員会の文化財保護行政担当者を対象として、埋蔵文化財にかかる基礎知識・技術について研修を行い担当者の資質の向上を目的とした研修会(広島県教育委員会委託事業)を開催しました。6月18日(水)～19日(木)の2日間、「発掘調査基礎課程」を行い4名の担当職員が、7月30日(水)～31日(木)の2日間は大竹市小方で発掘調査をしている亀居城関連遺跡において「発掘調査実習課程」を行い4名の担当職員が受講しました。非常に短期間で十分とはいえませんが、埋蔵文化財の技術の基本を身に付けていただきました。



土層断面の実測

# 考古学 アラカルト 43

## ひろしまの渡来系遺物

日本の文化は、その多くが外来の文化をもとに形成されてきました。今では日本独特、あるいは固有の・・・と思われがちな文化や技術・風習も、起源をさかのぼれば、ほとんど海外から日本列島に伝えられ、歴史のなかで変化してきたものです。

日本の古代には、さまざまなモノや思想・風習が伝わりました。その中にはその後の列島の文化として根付いたものや忘れられたものがあります。その最初のころの様子はどうだったのでしょうか。

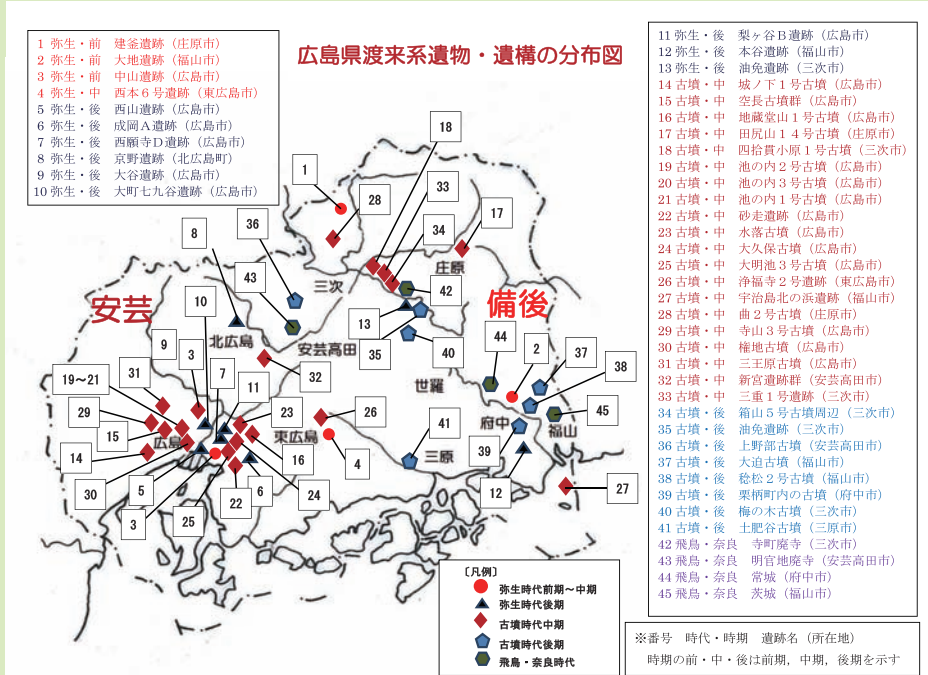
広島県内で発見された弥生時代から奈良時代の渡来系遺物や遺構を集成してみると、古墳時代中期(5世紀)に渡来系遺物のピークがあり、特に広島湾岸周辺に集中することがわかりました。時期的なピークは瀬戸内など西日本一帯と同じですが、広島の流入の窓口が広島湾にあったことがわかり、当時の渡来人の渡来経路も瀬戸内海が主流だったことが考えられます。

なかでも、日韓に類例のない耳かき状に先端を加工した金銅製垂飾(城ノ下第1号古墳)は珍しいものです。おそらく簪のような髪飾りで、古墳からは鉄製の鎧(短甲)も出土していることなどから、古墳の主が半島に武人として出かけていったことを思わせます。ほかには日韓に出土例の少ない又鍬(池の内第2号古墳)が注目されます。さらに興味深いのは、5世紀中ごろの豎

穴系横口式石槨に銚かさがいを使用した空長古墳群です。石室の特徴などから当時の半島南部にあった伽耶そらながの渡来人と関わりが深いと考えられています。

三次市・三重1号遺跡では、半島の住居に特徴的なオンドルの起源となったL字状カマドが県内で唯一発見されています。付近の箱山第5号古墳周辺からは、これも渡来人と関わりが深いとされるミニチュア竈形土器も発見されていて、この時期の県北部にも渡来系遺物や遺構が確認されつつあります。

ところが古墳時代後期(6世紀)になると、広島湾岸の渡来系遺物はほとんど明らかでなく、かわって備後南部と北部に点々と発見されるようになります。この傾向は7世紀以降の飛鳥・奈良時代も変わらず、古墳時代中期と後期の境あたりで、渡来系遺物の出方、すなわち渡来人や渡来文化流入の窓口が、地理的に大陸に近い広島湾岸から、備後南部に変わったことが考えられます。備後南部は、この時期以降吉備(のちの備前・備中・美作・備後)の一角を占めるようになる地域で、渡来人や渡来文化が吉備を大きな窓口として流入するようになるのかも知れません。大胆に推測すれば、古墳時代中期(5世紀)ごろまでは、比較的自由的な渡来人の流入の動きが、古墳時代後期(6世紀)を境に吉備という大きな勢力の影響下に政治的にコントロールされてくるようになる、という見方ができるかもしれません。(伊藤実)



講座では広島市大雨災害義援金の募金活動をしています。  
みなさまのご協力をお願いします。

## ひろしま考古学講座Ⅲ

# —考古学からみた「しまのわ」大研究— を開催します。

**会場** 広島県立総合体育館 中・大会議室  
(広島市中区基町4番1号 Tel: 082-228-1111)

**定員** 100名

**時間** 各回とも13時30分～15時30分(開場は13時～16時)

聴講料無料  
(各回申込不要)

回	期 日	講 座 名 ・ 講 師	講座の概要
1	10月19日(日)	高地性集落と倭国大乱 —広島湾岸を中心に— 山田 繁樹(当教育事業団)	高地性集落の最近の発掘調査成果とあわせてひろしまの高地性集落を再検討します。
2	11月2日(日)	弥生～古墳時代の土器からみた交流 —広島と愛媛を行き交う— 梅木 謙一(松山市埋蔵文化財センター)	弥生～古墳時代の土器に焦点をあて、土器の地域性や移動、交流の実態を紹介します。
3	11月23日(日)	瀬戸内からみた邪馬台国のありか —邪馬台国論争！ひろしまは蚊帳の外か— 伊藤 実(当教育事業団)	邪馬台国の所在について、視点を広島に置き、近畿説と九州説を中立の立場で考えます。
4	11月30日(日)	いわゆる山陰系“コシキ形土器”からみた地域間交流 谷若 倫郎(愛媛県教育委員会)	弥生後期～古墳前期の筒抜けの謎の土器、朝鮮半島も含めて土器の謎解きに挑みます。
5	12月7日(日)	芸予の島々と中世の流通 —海賊の遺跡を中心に— 柴田 圭子(愛媛県埋蔵文化財センター)	海賊と関わる遺跡から出土した遺物を中心に、流通と海賊の関わりについて考えます。
6	12月23日(火祝)	発掘調査からみた中世の海城 —広島県大崎上島町の葛城跡発掘調査から— 尾崎 光伸(当教育事業団)	葛城跡の発掘調査成果から、新たに見えてきた中世「海城」の様相を考古学から考えます。

### あとがき

- ・「ひろしまの遺跡」第112号をお届けします。
- ・近年、局地的な大雨などにより各地で災害が発生しています。広島でも甚大な被害が生じました。1日も早い復旧・復興を願うとともに、この教訓を活かして安全で住みよい広島県になることを願います。
- ・今年度、新たに始めた「知られざるひろしまの遺跡探訪」は好評のうちにスタートしました。(T.K)

### (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第112号

発行日 平成26(2014)年9月30日  
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号  
TEL(082)295-5751  
ホームページ <http://www.harc.or.jp>  
E-mail [maibun@harc.or.jp](mailto:maibun@harc.or.jp)  
発行 公益財団法人 広島県教育事業団  
印刷 株式会社 エル・コ